



GUNMA KUSATSU MUSIC SOCIETY FOUNDATION

44th KUSATSU INTERNATIONAL SUMMER MUSIC ACADEMY

令和6年3月4日

公益財団法人群馬草津国際音楽協会

草津夏期国際音楽アカデミー局

事務局長 井阪 紘

Tel: 03-5790-5561

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

音楽顧問の就任について

第31回（2010年）より第43回（2023年）まで、音楽監督を務めた西村朗の急逝にともない、第44回（2024年）の音楽祭は音楽監督の職務を事務局長井阪紘が務めることとなりました。また、この決定を踏まえ、西村朗と旧知の仲であり、故人の意志を繋ぎ音楽祭の陰の支えを引き受けてくださる吉松隆を音楽顧問として迎え入れることとなりました。この一年で当音楽祭の新たな体制づくり励み、更に今後を期待できる音楽祭を目指します。

【新音楽顧問】 吉松 隆（作曲家 経歴詳細は3ページ目）

草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルは、1980年、音楽監督・豊田耕児(ヴァイオリニスト)と実行委員長・遠山一行でスタートしました。第11回（1990年）より第30回(2009年)まで音楽祭を支えた遠山が退く際、「音楽祭をはじめた時に、これは50年100年と続けるようなものにしなければと言ったが、30年という年月はそれが夢ではないことを示しているかもしれない。」と説き、それを引き継ぐ形で西村朗が音楽監督に着任。元々草津とは深い縁があった西村は、在任中、毎夏草津に滞在し、精力的にマスタークラスを回り、時には受講曲に自身の作品を取り上げている受講生達への特別レッスンも行いました。また、氏の作品の初演、再演時には時間を惜しまず尽力し、例えば、室内オペラ「絵師」を能作品として草津で実現した他、フルーティストのヴォルフガング・シュルツの逝去に際しては「ウォルフガング・シュルツ氏の思い出に寄せるアダージョ」を作曲、2014年に亡くなった遠山一行の追悼では「弦楽のためのラルゴ～遠山一行先生の思い出に」を作曲し、初演では指揮も務めました。最近では2021年の遠山慶子の追悼で「〈永遠の微笑み〉～遠山慶子先生の思い出に（2021）」を作曲、ピアノで自演し、パンデミックで沈んでいた音楽祭の励ましにも寄与していただきました。

遠山の言葉の中にある50年という山の頂が見てきた本年、西村が志半ばで病に倒れ、今後の音楽祭の将来をどのように開拓していくべきか再考すべき時に、救いの手ともいえる、西村の学生時代からの友人であり長く付き合いのあった作曲家の吉松隆が顧問として着任することが決定しました。

吉松と音楽祭の縁は第8回(1987年)に彼の作品展を開催したことに遡り、それだけでなく、音楽祭としても「古典と現代」のテーマを掲げた2001年にはオープニング・コンサートで「朱鷺によせる哀歌(1980)」、2013年には現代曲の巨匠ピアニストであるブルーノ・カニーノのリサイタルで「プレイアデス舞曲集 第3集」など吉松作品を取り上げてまいりました。

初代豊田耕児から遠山一行、そして西村朗に引き継がれたバトンをこの先、何方へ引き継ぐのか、吉松隆の力添えと共にこの一年をじっくり考え50年、100年と継続できる音楽祭を目指します。



吉松 隆(よしまつ たかし) 作曲家

1953年(昭和28年)東京生まれ。作曲家。少年時代は手塚治虫のような漫画家か、お茶の水博士のような科学者になろうと思っていたが、中学3年の時に突然クラシック音楽に目覚め、慶應義塾大学工学部を中退後、一時松村禎三に師事したほかはロックやジャズのグループに参加しながら独学で作曲を学ぶ。1981年に「朱鷺によせる哀歌」でデビュー。以後いわゆる「現代音楽」の非音楽的な傾向に異を唱え、調性やメロディを復活させた「新(世紀末)抒情主義」および「現代音楽撲滅運動」を主唱、交響曲6曲や協奏曲10曲を始めとするオーケストラ作品を中心に、く鳥のシリーズなどの室内楽作品、くプレイアデス舞曲集などのピアノ作品のほか、ギター作品、邦楽作品、舞台作品など数多くの作品を発表する。1998年からはイギリスのシャンドス(Chandos)とレジデント・コンポーザーの契約を結び全オーケストラ作品が録音される。最近ではキース・エマーソンの作品「タルカス」をオーケストラ用に編曲し大きな反響を受けた。また2009年映画太宰治原作「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」の作曲を監督の根岸吉太郎氏の指名により手掛け、日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞。2003年放映TVアニメ「ASTROBOY 鉄腕アトム」の音楽も担当。2012年放送NHK大河ドラマ「平清盛」の音楽を担当し、2枚のサウンドトラックに加えボックスセットを日本コロムビアよりリリース。評論・エッセイなどの執筆活動のほか、イラストレーターとしても活躍中で、著書に「図解クラシック音楽大事典」(学研)、「夢みるクラシック交響曲入門」(筑摩書房)、編著書に「クラシックの自由時間」(立風書房)、また自伝「作曲は鳥のごとく」(春秋社)などがある。2013年3月20日には幻のデビュー作から大河ドラマ「平清盛」までの作曲家・吉松隆60年の集大成「吉松隆還暦コンサート『鳥の響展』」を東京オペラシティで開催、高評を得た。オフィシャル・ホームページ: <http://yoshim.music.coocan.jp/>

【 リンク 】

- ジャパンアーツ(所属事務所) → <https://www.japanarts.co.jp/artist/takashiyosimatsu/>
- 作品リスト → https://asks-orch.com/takashi_yoshimatsu_works.html